

〈特集「モダリティ」〉

北琉球奄美大島浦方言：「モダリティ」  
The Ura dialect of Amami-Oshima Northern Ryukyuan: 'Modality'

重野 裕美<sup>1</sup>, 白田 理人<sup>2</sup>  
Hiromi Shigeno, Rihito Shirata

1 日本学術振興会/広島大学 JSPS/Hiroshima University  
2 広島大学 Hiroshima University

**要旨**：本稿は、『語学研究所論集』第16号所収の調査票を用いて収集した北琉球奄美大島浦方言におけるモダリティのデータを提供することを目的とする。

**Abstract**: The present paper aims to provide data on modality in the Ura dialect, collected using the questionnaires included in *Journal of the Institute of Language Research* 16.

**DOI**: <https://doi.org/10.15026/0002001482>

**キーワード**：琉球諸語，奄美大島方言，モダリティ

**Keywords**: Ryukyuan languages, Amami-Oshima dialect, modality

## 1. はじめに

本稿は、『語学研究所論集』第16号所収の調査票を用いて収集した北琉球奄美大島浦方言におけるモダリティのデータを提供することを目的とする。

浦方言は奄美大島の浦集落（鹿児島県大島郡龍郷町）で話されている。奄美群島から沖縄県にわたって話されている琉球諸語の下位分類である奄美大島方言に属する。ほとんどの地域で現代日本語共通語への言語推移が進行している。

本稿のデータは、浦方言の話者1名（1950年生まれ、調査時75歳、男性）<sup>1</sup>への調査に基づく。調査は2025年2月～11月に対面で実施した（その後、一部の項目について、電話による確認調査を行った）。例文は、基本的に、問題となる述語及び二人称代名詞に敬語表現を用いない形に統一したが、聞き手の行為に関する許可・禁止・推奨・勧誘・命令の表現（3-1・3-2・3-4・3-8・3-9・3-26・3-28）、及び、聞き手に対して話し手の行為の申し出を行う1人称意志の表現（3-7）については、聞き手の待遇の影響が想定されるため、聞き手が話し手と同年または年下の場合を a、聞き手が年上の場合を b として、2種類の例文を示している（ただし、年下の聞き手への命令と、年上の聞き手への懇願を対比的に示している3-11・3-12は、それぞれ、聞き手が当該の待遇を受ける場合のみ示している）。このうち、bの例文について、尊敬動詞語根／尊敬接辞-(i)sjo(r)-／丁寧接辞-jo(r)-の使用以外に留意点がある場合には適宜説明を追加している。モダリティ表現の説明は、基本的に動詞を中心としたものとしている。説明の便宜上、動詞語幹を V で代表させた箇所がある。音素表記は、重野・白田（2022）を参照されたい。文末でイントネーションを伴い長母音化することがある形式は、例文中では音声上の長短に従って表記し、説明の中で形式に言及する際は2モーラ目を( )に入れて示している。



本稿の著作権は著者が保持し、クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス(CC-BY)下に提供します。  
<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

<sup>1</sup> 筆者がこれまでに高齢の話者（1930～40年代生まれ）を対象に調査した結果と比べ、敬語の使用、中舌母音・喉頭化子音の分布等の点で相違があり、世代差が想定される。この点について適宜注記する。

## 2. 「モダリティ」

「～(し)ても良い」に相当する許可の表現として、動詞の譲歩形 V-(t)aNtiN に「良い」を表す形容詞 ji-ccja が後続したものが用いられる (3-1)。「～(し)てはいけない」に相当する禁止の表現として、動詞の継起形 V-(t)i に主題助詞=ja が後接し、さらに動詞 i(k)-の否定非過去形 ik-aN が後続したものが用いられる (3-2i)。禁止の表現としては、動詞の禁止形 V-una/V-nna も用いられる (3-2ii)。禁止形には文末助詞=jo(o)が後接しうる (同上)。なお、目上の聞き手の行為の禁止について、「～(し)てはいけない」に相当する表現 (3-2i-b) も許容されたものの、禁止形 (3-2ii-b) を用いる方が自然と判断された。

3-1 (その仕事が終わったら) もう帰ってもいいですよ。

a. uN sigutu=nu uwar-iba naa<sup>2</sup> mudu-taNtiN ji-ccja-t=too.  
 その 仕事=NOM1 終わる-COND もう 戻る-CONC 良い-ADJZ-NPST=ASSR  
 その仕事が終わったらもう帰ってもいいよ。

b. uN sigutu=nu uwar-iba naa mudur-isjo-taNtiN ji-ccjar-jo-t=too.  
 その 仕事=NOM1 終わる-COND もう 戻る-HON-CONC 良い-ADJZ-POL-NPST=ASSR  
 その仕事が終わったらもうお帰りになってもいいですよ。

3-2 (腐っているから、あなたは) それを食べてはいけない／それを食べるな。

i-a. urī=ja kusa-tu-N=kara<sup>3</sup> ka-dī=ja ik-aN=doo.  
 それ=TOP 腐る-PROG-NPST=CSL 食べる-SEQ=TOP いく-NEG.NPST=ASSR  
 それは腐っているから食べてはいけないよ。

i-b. urī=ja kusa-tur-jo-N=kara misjo-tī=ja ik-jor-aN=doo.  
 それ=TOP 腐る-PROG-POL-NPST=CSL 食べる.HON-SEQ=TOP いく-POL-NEG.NPST=ASSR  
 それは腐っていますので召し上がってはいけませんよ。

ii-a. urī=ja kusa-tu-N=kara kam-una=joo.  
 それ=TOP 腐る-PROG-NPST=CSL 食べる-PROH=SFP  
 それは腐っているから食べるなよ。

ii-b. urī=ja kusa-tur-jo-N=kara { misjo(r-isjo)-Nna / kam-isjo-Nna } =joo.<sup>4</sup>  
 それ=TOP 腐る-PROG-POL-NPST=CSL 食べる.HON(-HON)-PROH 食べる-HON-PROH =SFP  
 それは腐っていますから召し上がらないでね。

「～(し)なければいけない」に相当する義務の表現として、動詞の否定条件形 V-(r)aN-ba に、動詞 i(k)-の否定非過去形 ik-aN が後続したものが用いられる (3-3)。「～(し)たほうが良い」に相当する推奨の表現として、動詞の過去連体形 V-(t)a-N に、形式名詞 hoo+主格助詞=ga が後続し、さらに、「良い」

<sup>2</sup> 「もう」naa は、特に本報告の話者より高齢の話者の場合、喉頭化子音 n' を用いて n'aa と発音されることがある。鼻音の喉頭化／非喉頭化の区別が消失し非喉頭化音に合流する変化が進行していると言える。

<sup>3</sup> 理由節標識として、特に本報告の話者より高齢の話者の場合、=kana が用いられることがある。3-2i-a 等における=kara の使用は、共通語化の影響によるものである可能性がある。

<sup>4</sup> 重野 (2018) の調査報告においては、尊敬動詞語根に尊敬接辞を後接させること、及び、尊敬動詞語根と意味的に対応する非尊敬の動詞語根に尊敬接辞を後接することは避けられていた。一方、本稿のために行った調査では、尊敬動詞語根 misjo(r)-に尊敬接辞-(i)sjo(r)-を後接させた例、及び、非尊敬の動詞語根 ka(m)-に尊敬接辞-(i)sjo(r)-を後接させた例が見られた。これは、語彙的尊敬動詞語根についていわゆる敬意逡減の変化が生じ、これに伴い、対応する非尊敬動詞語根が尊敬／非尊敬の区別の点でニュートラルになり、また、尊敬の標示として語彙的尊敬動詞よりも尊敬接辞の方が一般的になってきているためと言える。3-8-b・3-28i-b・3-28ii-b についても同様である。

を表す形容詞 *ji-ccja* が後続したものが用いられる (3-4). この表現は、「～(する)ものだ/べきだ」に相当する評価的義務にも用いられる (3-5).

3-3 (遅くなったので) 私たちはもう帰らなければならない.

oso-sa-N=kara wa-kja=ja naa mudur-aN-ba ik-aN.  
遅い-ADJZ-NPST=CSL 1-PL=TOP もう 戻る-NEG-COND いく-NEG.NPST  
遅いから私たちはもう帰らなければいけない.

3-4 (雨が降るそうだから) 傘を持って出かけたほうがいいよ.

a. amu<sup>5</sup>=nu hur-juN=nisi sju-N=kara  
雨=NOM1 降る-NPST=SIMIL する.PROG-NPST=CSL  
kasa=ba muc-ci i-zja-N hoo=ga ji-ccja-t=too.  
傘=ACC 持つ-SEQ 行く(AUX)-PST-ADN 方=NOM2<sup>6</sup> 良い-ADJZ-NPST=ASSR  
雨が降るようだから傘を持っていったほうがいいよ.

b. amu=nu hur-juN=nisi sjur-jo-N=kara  
雨=NOM1 降る-NPST=SIMIL する.PROG-POL-NPST=CSL  
kasa=ba muc-ci mo-sja-N hoo=ga ji-ccjar-jo-t=too.  
傘=ACC 持つ-SEQ 行く.HON-PST-ADN 方=NOM2 良い-ADJZ-POL-NPST=ASSR  
雨が降るようですので傘を持っていかれたほうがいいですよ.

3-5 歳をとったら, 子供の言うことを聞くべきだ/聞くものだ.

tusi tur-iba k'waa=nu j'-u-N kutu=ba ki-cja-N hoo=ga ji-ccja-t=too.  
歳 取る-COND 子=NOM1 言う-NPST-ADN 事=ACC 聞く-PST-ADN 方=NOM2 良い-ADJZ-NPST=ASSR  
歳をとったら, 子供の言うことを聞いたほうがいいよ.

話し手の希望のうち、「～(し)たい」に相当する, 話し手自身の意志的な行為に関する場合の表現として, 動詞語幹に希望接辞-(i)cja-を後接させた形式が用いられる (3-6). この形式には, 接辞-sa が後接し形態的には形容詞として振る舞う. 話し手の意志の表現として, 動詞の意志形 V-(r)o(o)が用いられ, 聞き手に対して話し手の行為の申し出を行う際には, 意志形に文末助詞=ji(i)が後続する (3-7).

3-6 お腹が空いたので, (私は) 何か食べたい.

wata=nu hi-cjaN=kara nuu=ka kam-icja-sa=jaa.  
腹=NOM1 減る-PST=CSL 何=INDEF 食べる-DES-ADJZ.NPST=SFP  
お腹が減ったから, 何か食べたいなあ.

<sup>5</sup> 「雨」 *amu* は, 特に本報告の話者より高齢の話者の場合, 中舌母音 *i* を用いて *ami* と発音されることがある. 両唇音に後続する環境における中舌母音から奥舌母音への変化が進行していると言える.

<sup>6</sup> 主格助詞は名詞の種類及び述語の品詞によって使い分けられる (重野 2016).

3-7 私が持ちましょう.

- a. wa=ga mut-o=jii.  
 1.SG=NOM2 持つ-INT=SFP  
 私が持とう.
- b. wa=ga mucc-jor-o=jii.  
 1.SG=NOM2 持つ-POL-INT=SFP  
 私が持ちましょう.

聞き手に対して、話し手とともに行う行為への勧誘を行う表現として、動詞の意志形-(r)o(o)が用いられる (3-8). 意志形には文末助詞=ja(a)が後続しうる (3-8-b). 相手の意向が不明な場合の勧誘には、「～(し)ないか」相当の表現として、動詞の否定非過去形 V-(r)aN に真偽疑問文末助詞=na(a)が後続したものが用いられる.

3-8 じゃあ、一緒に昼ご飯を食べましょう.

- a. maaziNma himabaN kam-oo.  
 一緒に 昼ご飯 食べる-INT  
 一緒に昼ご飯を食べよう.
- b. maaziNma himabaN { misjor-o / kam-isjor-o } =jaa.  
 一緒に 昼ご飯 食べる.HON-INT 食べる-HON-INT =SFP  
 一緒に昼ご飯を食べましょうね.

3-9 一緒に昼ご飯を食べませんか?

- a. maaziNma himabaN kam-aN=naa?  
 一緒に 昼ご飯 食べる-NEG.NPST=YNQ  
 一緒に昼ご飯を食べないか?
- b. maaziNma himabaN misjor-aN=naa?  
 一緒に 昼ご飯 食べる.HON-NEG.NPST=YNQ  
 一緒に昼ご飯を召し上がりませんか?

話し手の希望のうち、「～(する)といいなあ」に相当する、話し手自身の意志的な行為以外に関する場合の表現として、動詞の条件形 V-(ri)ba に「良い」を表す形容詞 ji-ccja が後続し、これに文末助詞=ja(a)が後接したものが用いられる (3-10).

3-10 明日、良い天気になるといいなあ。／明日は良い天気になってほしいなあ.

- assja=ja haagar-iba ji-ccja=jaa.  
 明日=TOP 明るくなる-COND 良い-ADJZ.NPST=SFP  
 明日は晴れるといいなあ.

目下の聞き手への命令の表現としては、規則動詞の場合、語幹に命令接辞-(r)i(i)/-(r)i(i)を後接させて作る命令形が用いられる (e.g. kam-i=joo. 食べる-IMP=SFP 「食べろよ.」) が、不規則動詞「来る」の場合は、特殊な命令形 ku(u)が用いられる (3-11). 命令形には助詞=jo(o)が後続しうる (同上). 目上の聞き手への懇願の表現として、動詞の継起形 V-(t)i に、恩恵を表す補助動詞 k’uri-の尊敬否定非過去形 k’uri-sjor-aN が後続し、これに真偽疑問文末助詞=na(a)を後接したものが用いられる (3-12).

3-11 (私はここで待っているから) すぐにそれを持って来なさい。

waN=ja kuma=zi mac-cju-N=kara uri=ba sugu muc-ci ku=joo.  
 1.SG=TOP ここ=LOC 待つ-PROG-NPST=CSL それ=ACC すぐ 持つ-SEQ 来る.IMP=SFP  
 私はここで待っているからそれをすぐに持って来なさい。

3-12 そのペンをちょっと貸していただけませんか？

uN peN=ba ittuki kar-a-si k'uri-sjor-aN=naa?  
 その ペン=ACC 一時 借りる-CAUS-SEQ BEN-HON-NEG.NPST=YNQ  
 そのペンをちょっと貸していただけませんか？

可能の表現として、能力可能／状況可能のどちらの場合も、可能接辞-(r)a(ri)-が用いられる (3-13i・3-14).  
 この他、能力可能の場合に用いられる可能接辞-(i)ki(r)-がある (3-13ii).

3-13 あの人は中国語が読めます。／あの人は中国語を読むことができます。

i. aN c'ju=ja c'juugokugo=ba jum-arī-t=too.  
 あの 人=TOP 中国語=ACC 読む-POT1-NPST=ASSR  
 あの人は中国語が読めるよ。  
 ii. aN c'ju=ja c'juugokugo=ba jum-ikir-jut=too.  
 あの 人=TOP 中国語=ACC 読む-POT2-NPST=ASSR  
 あの人は中国語が読めるよ。

3-14 明かりが暗くて、ここに何が書いてあるのか、読めない。

haagari=nu k'ura-sa-ti kuma=nanti nuu=ba ka-si a-N=ganu  
 明かり=NOM1 暗い-ADJZ-SEQ ここ=LOC 何=ACC 書く-SEQ RES-NPST=QCOMP1  
 jum-ar-aN=doo.  
 読む-POT1-NEG.NPST=ASSR  
 明かりが暗くてここに何が書いてあるのか読めないよ。

「～はず」に相当する確信の表現として、動詞連体形に形式名詞 *hazi* が後続したものが用いられる (3-15). 「～だろう」に相当する推量の表現としては、基本的に動詞のテンス対立のある形式に推量接辞-(r)o(o)が後接した形式が用いられる (e.g. *ka-da-ro=jaa*. 食べる-PST-INFR=SFP 「食べただろうなあ.」) が、否定非過去の場合は、コピュラ動詞が後続し、これに推量が標示される (3-16). 「～ではないか」に相当する疑念の表現として、動詞のテンス対立のある形式に接辞-N を後接させて作る準体形 (過去の場合は継起形-ti も可) に、コピュラの否定非過去形が後続し、文末に上昇の疑問イントネーションを伴ったものが用いられる. 「～かもしれない」に相当する可能性の表現としては、動詞に助詞=*kamo* が後接し、さらに、「分かる」相当の動詞 *wakar*-の否定非過去形 *wakar-aN* が後続したものが用いられる<sup>7</sup>.

<sup>7</sup> 白田・重野 (2016:227) は、浦方言の 1932 年生まれ男性話者の自然発話において、「～するかもしれない」に相当する表現として“*s-juN=ganu wakar-aN*” (する-NPST=QCOMP1 分かる-NEG.NPST) を報告している. 3-18 における=*kamo* の使用は共通語化の影響によるものである可能性がある.

3-15 (朝早く出発したから) 彼らはもう着いているはずだ／もう着いたに違いない。

sikama ho-ssa izi-taN=kara at-ta=ja naa si-cju-N hazi zja=gaa.  
朝 早い-ADJZ 出る-PST=CSL 3-PL=TOP もう 着く-PROG.NPST-ADN はず COP.NPST=SFP  
朝早く出たから彼らはもう着いているはずだ。

3-16 (あの人は) 明日はたぶん来ないだろう。

assja=ja aN c'ju=ja kuN dar-oo.  
明日=TOP あの 人=TOP 来る.NEG.NPST COP.NPST-INFR  
明日はあの人は来ないだろう。

3-17 彼らはまだ来ないなんて、きっと途中で車が壊れたんじゃないか。

at-ta=ga kuN=ci nar-iba kiigacina  
3-PL=NOM1 来る.NEG.NPST=QUOT なる-COND 来る.SIMUL  
k'uruma=nu kosjoo { sja-N / si } an-aN?  
車=NOM1 故障 する.PST-NMLZ する.SEQ COP-NEG.NPST  
彼らが来ないというのなら、きっと来る途中で車が壊れたんじゃないか？

3-18 (昼間だからあの人は家に) さあ、いるかもしれないし、いないかもしれない。

wu-N=kamo wakar-aN=si wur-aN=kamo wakar-aN.  
居る-NPST=QCOMP2 分かる-NEG.NPST=ADDC 居る-NEG.NPST=QCOMP2 分かる-NEG.NPST  
いるかもしれないし、いないかもしれない。

視覚／聴覚以外の感覚による判断の表現としては、動詞に「ように」に相当する類似を表す接続助詞 =nisi が後続し、さらに、「する」相当の動詞の進行形 sju(r)-が後続したもの<sup>8</sup>が用いられる (3-19)。伝聞の表現には、文末助詞=(c)cju(k)kana(a)が用いられる。これは、引用助詞=(c)ci+「言う」相当の動詞非過去形 j'-uri+文末助詞=gana(a)に由来する形式と考えられる。

3-19 (額に触ってみて) どうもあなたは熱があるようだ。

j'aa=ja necu=nu a-N=nisi sju-k=kaa.  
2.SG=TOP 熱=NOM1 ある-NPST=SIMIL する.PROG-NPST=SFP  
お前は熱があるようだ。

3-20 (天気予報によれば) 明日は雨が降るそうだ。

assja=ja amu=nu hur-juN=cjukkanaa.  
明日=TOP 雨=NOM1 降る-NPST=REP  
明日は雨が降るそうだ。

反実仮想について、条件節の述語には、動詞の条件形 V-(ri)ba が用いられる (3-21)。過去の反実仮想の場合には、条件節の述語に過去条件形 V-tar-iba も用いられる (3-22)。主節について、実現しなかった望

<sup>8</sup> この表現を用いる場合、判断の根拠は「視覚／聴覚以外の感覚」に限定されるわけではない。3-4の従属節の例のように、例えば天気予報を聞いた場合等の伝聞の文脈にも用いられる。また、3-4の例文は、空の様子を話者自身が見て判断した場合にも用いられる。

ましい事態を述べる場合、逆接の接続助詞=ba が述語に後続する (3-21)。過去の反実仮想の場合、肯定であれば主節の述語において動詞語幹と過去接辞の間に反事実を表す接辞-ju-が現れうる (e.g. ziN=nu ar-iba aN k'uruma=ba ko-ju-taN=ba=jaa. 金=NOM1 ある-COND あの 車=ACC 買う-CF-PST=AC=SFP 「お金があればあの車を買ったんだけどなあ。」) が、否定であれば現れない (3-22)。

3-21 もしお金があつたら、あの車を買うんだけどなあ。

ziN=nu ar-iba aN k'uruma=ba ko-juN=ba=jaa.  
 金=NOM1 ある-COND あの 車=ACC 買う-NPST=ADVC=SFP  
 お金があればあの車を買うんだけどなあ。

3-22 もしあなたが教えてくれていなかったら、私はそこにたどり着けなかったでしょう。

j'a=ga jusi-ti k'uri-tur-aN-(tar-i)ba waN=ja uma=cci ik-ar-aN-tar-o=jaa  
 2.SG=NOM2 教える-SEQ BEN-PROG-NEG-PST-COND 1.SG=TOP そこ=ALL 行く-POT1-NEG-PST-INFR=SFP  
 お前が教えてくれていなかったら、私はそこへ行けなかつただろうなあ。

3 人称の主体による希望の表現として、動詞語幹に願望接辞-(i)cja-及び形容詞化接辞-(s)a が後接した形式 (もしくは、動詞に「ように」に相当する類似を表す接続助詞=nisi が後接した形式) に、「する」相当の動詞の進行形 sju(r)-が後続したものが用いられる。

3-23 (あの人は) 街へ行きたがっている。

aN c'ju=ja maci=cci { ik-icja-sa / ik-icja-sa-N=nisi } sju-t=too.  
 あの 人=TOP 街=ALL 行く-DES-ADJZ 行く-DES-ADJZ-NPST=SIMIL する.PROG-NPST=ASSR  
 あの人は街へ行きたがっているよ。

1 人称命令／二人称命令に相当する特別な屈折形式は存在せず、代わりに使役接辞-(r)a(s)-を含む表現が用いられる (3-24・3-25)。

3-24 僕にもそれを少し飲ませろ。

wa=Nzi=daka uri=ba nari-kkwa num-as-ii.  
 1.SG=DAT=ADD それ=ACC 少し-DIM 飲む-CAUS-IMP  
 私にもそれを少し飲ませろ。

3-25 これはあの人に持って行かせろ／持って行かせよう。

i. kuri=ja aN c'ju=Nzi muc-ci ik-as-ii.  
 これ=TOP あの 人=DAT 持つ-SEQ 行く-CAUS-IMP  
 これはあの人に持って行かせろ。  
 ii. kuri=ja aN c'ju=Nzi muc-ci ik-as-oo.  
 これ=TOP あの 人=DAT 持つ-SEQ 行く-CAUS-INT  
 これはあの人に持って行かせよう。

遠未来の命令は、近未来の命令と同様、命令形が用いられる (3-26)。

3-26 そのテーブルの上のお菓子は後で食べなさい。

a. uN cukue=nu uu=nu k'wasi=ja ato=ra kami=joo.  
 その 机=GEN 上=GEN 菓子=TOP 後=ABL 食べる-IMP=SFP  
 その机の上のお菓子は後で食べろよ。

b. uN cukue=nu uu=nu k'wasi=ja ato=ra misjor-i=joo.  
 その 机=GEN 上=GEN 菓子=TOP 後=ABL 食べる.HON-IMP=SFP  
 その机の上のお菓子は後で召し上がってね。

反実仮想に用いられる条件形 V-(ri)ba (3-27) は、脱従属化した勧めの表現としても用いられる (3-28ii).

3-27 もっと早く来ればよかった。

ato nannari ho-ssa kuu-ba ji-ccja-taN=ba=jaa.  
 後 もう少し 早い-ADJZ 来る-COND 良い-ADJZ-PST=ADVC=SFP  
 あともう少し早く来ればよかったんだけどなあ。

3-28 あなたも一緒に行ったら (どうですか) ?

i-a. j'aa=daka maaziNma ik-iba kjar-i<sup>9</sup>=joo?  
 2.SG=ADD 一緒に 行く-COND どうである-NPST=WHQ  
 お前も一緒に行ったらどう?

i-b. naN=daka maaziNma { mor<sup>10</sup>(-isjor)-iba / ik-isjor-iba }  
 2.HON.SG=ADD 一緒に 行く.HON(-HON)-COND 行く-HON-COND  
 kjassi dar-jo=kai?  
 どう COP-POL.NPST=DUB  
 あなたも一緒にお行きになったらどうでしょうか?

ii-a. j'aa=daka maaziNma ik-ibaa.  
 2.SG=ADD 一緒に 行く-COND  
 お前も一緒に行ったら。

ii-b. naN=daka maaziNma { mor(-isjor)-ibaa. / ik-isjor-ibaa. }  
 2.HON.SG=ADD 一緒に 行く.HON(-HON)-COND 行く-HON-COND  
 あなたも一緒にお行きになったら。

真偽疑問文末標識を用いた反語の表現は、(少なくとも) 本報告のための調査の範囲では許容されず、代わりに動詞の否定形が用いられた (3-29).

<sup>9</sup> kjar-i は、3-28i-a のように勧めの表現において条件節に後続する場合しか現れず、語形変化できないため、共時的には -ba kjar-i=joo を一つの文末表現とみなすことも可能である。

<sup>10</sup> 「行く」(及び「来る」「居る」「言う」) 相当の尊敬動詞語根 mo(r)-は、特に本報告の話者より高齢の話者の場合、本動詞として用いられる際、喉頭化子音 m' を用いて m'o(r)- と発音されることがある。鼻音の喉頭化/非喉頭化の区別が消失し非喉頭化音に合流する変化が進行していると言える。

3-29 オレがそんなこと知るか！

waN=ja ugasjaN kutu { sir-aN / sic-cjur-aN } =doo.  
1.SG=TOP そんな 事 知る-NEG.NPST 知る-PROG-NEG.NPST =ASSR  
私はそんなこと知らないよ。

付加疑問に意味用法上相当する表現として、推量形に文末助詞=ja(a)が後続したのが見られる (3-30).

3-30 これを作った（料理した）のは、お母さんだよ？／いいえ、私を作ったのよ。

kuŕi cuku-ta-N=ja j'a-kja kaacjaN da-ro=jaa.  
これ 作る-PST-NMLZ=TOP 2-PL お母さん COP-INFR=SFP  
—ai kuŕi=ja wa=ga cuku-ta-N=doo.  
いや これ=TOP 1.SG=NOM2 作る-PST-NMLZ=ASSR  
これを作ったのは、お前たちのお母さんだよ。 —いや、これは私が作ったものだよ。

### グロス略号

1: first person, 2: second person, 3: third person, ABL: ablative, ACC: accusative, ADD: additive, ADDC: additive conjunction, ADV: adversative conjunction, ADJZ: adjectivizer, ADN: adnominal, ALL: allative, ASSR: assertive, BEN: benefactive, CAUS: causative, CONC: concessive, COND: conditional, COP: copula, CSL: causal, DAT: dative, DES: desiderative, DIM: diminutive, DUB: dubitative, GEN: genitive, HON: honorific, IMP: imperative, INDEF: indefinite, INFR: inferential, INT: intentional, LOC: locative, NEG: negation, NMLZ: nominalizer, NOM: nominative, NPST: non-past, PL: plural, POL: polite, POT: potential, PROG: progressive, PROH: prohibitive, PST: past, QCOMP: question complementizer, QUOT: quotation, REP: reportative, RES: resultative, SEQ: sequential, SFP: sentence final particle, SG: singular, SIMIL: similitive, SIMUL: simultaneous, TOP: topic, WHQ: wh question, YNQ: yes-no question

### 謝辞

本研究は JSPS 科研費 23KJ1654 及び国立国語研究所基幹型共同研究プロジェクト「日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成」の助成を受けている。貴重な時間を割いて浦方言について詳しく教えてくださった重野寛輝氏に心より感謝を申し上げる。なお、本稿にありうべき誤りは、すべて筆者に帰するものである。

### 参考文献

- 重野裕美 (2016) 「北琉球奄美大島龍郷町浦方言の格標識」『広島経済大学研究論集』39:(1・2):81-92.  
重野裕美 (2018) 「北琉球奄美大島龍郷町浦方言の尊敬動詞について」『広島経済大学研究論集』41(3): 77-95.  
重野裕美・白田理人 (2022) 「鹿児島県大島郡龍郷町浦」『日本の消滅危機言語・方言の文法記述』315-333. 東京：国立国語研究所。  
白田理人・重野裕美 (2016) 「北琉球奄美大島浦方言の自然談話資料—ハブ捕り話・ケンムン話—」『京都大学言語学研究』35:217-248.

執筆者連絡先：shigenohrm.58@gmail.com, shiratarihito@gmail.com

原稿受理：2026年3月3日

刊行年月日：2026年3月31日